

農業農村整備事業等事後評価地区別結果書（案）

局 名	農村振興局（北海道）
-----	------------

都道府県名	北海道	関係市町村名	そらちぐんなんぼろちよう 空知郡南幌町
事業名	経営体育成基盤整備事業	地区名	ゆうばりぶときた 夕張太北
事業主体名	北海道	事業完了年度	平成21年度

〔事業内容〕

事業目的：本地区は、北海道空知管内の西南端、石狩平野中央の南幌町に位置し、千歳川沿いに広がる平坦地において大規模農業が展開されている。

しかしながら、地区内のほ場の大半が30～40aの小区画不整形かつ排水不良でありまた、用排水路も老朽化による損傷や軟弱地盤による不等沈下による漏水状況が著しく農作業の効率化や農地の高度利用の阻害要因となっていた。

このため、本事業により、ほ場の大区画化や用排水路・道路等の整備・合理化を行い、農業生産の効率化・高度化を図るとともに、事業を契機として意欲的な農業後継者に農地の利用集積を図り生産組織の拡大と法人化を拡大することによって担い手の育成を図り、地域の農業構造の改善等に資する。

受益面積：204ha

受益者数：26人

主要工事：区画整理 152ha

暗渠排水 45ha

農業用排水施設 5.3km（用水路 3.8km、排水路 1.5km）

総事業費：1,374百万円

工期：平成16年度～平成21年度（計画変更：平成18年度）

関連事業：なし

〔項 目〕

1 社会経済情勢の変化

（1）社会情勢の変化

本地域の総人口について、平成12年と平成22年を比較すると10%減少し、北海道全体の減少率3%を上回っている。（北海道全体：H12:5,683,062人 H22:5,507,456人）

【人口、世帯数】

区分	平成12年	平成22年	増減率
総人口	9,792人	8,778人	△10%
総世帯数	2,992戸	3,068戸	3%

（出典：国勢調査）

産業別就業人口については、第1次産業の割合が平成12年の22%から平成22年の19%に減少しているものの、平成22年の北海道全体の割合7%を上回っている。

【産業別就業人口】

区分	平成12年		平成22年	
		割合		割合
第1次産業	1,024人	22%	824人	19%
第2次産業	983人	21%	785人	19%
第3次産業	2,723人	57%	2,663人	62%

（出典：国勢調査）

(2) 地域農業の動向

平成12年と平成22年を比較すると、経営耕地面積については2%、農業戸数は47%、農業就業人口は41%減少しており、65歳以上の農業就業人口も23%減少している。

一方、農家1戸当たりの経営面積は85%増加しており、認定農業者数は平成22年時点で157人となっている。

区分	平成12年	平成22年	増減率
耕地面積	5,622ha	5,509ha	△2%
農家戸数	396戸	210戸	△47%
農業就業人口	939人	553人	△41%
うち65歳以上	225人	173人	△23%
戸当たり経営面積	14.2ha/戸	26.2ha/戸	85%
認定農業者数	197人	157人	△20%

(出典：農林業センサス、認定農業者数は北海道調べ)

2 事業により整備された施設の管理状況

本事業により整備された揚水機、用水路、排水路、農道については、北海土地改良区南幌事業所より巡回点検・補修・草刈り等の日常管理が適切に行われており、施設機能は十分に維持されている。

また、一部の農業用排水施設においては、多面的機能支払交付金を活用し、地域住民が一体となって、施設の点検や施設周辺での草刈り等を行っている。

3 費用対効果分析の算定基礎となった要因の変化

(1) 農作物の生産量の変化

小麦、大豆、キャベツ、かぼちゃは、大区画化に伴う農作業の効率化や排水改良・土層改良によるほ場条件の改善により、計画を上回る作付けとなっている。

【作付面積】

(単位：ha)

区分	事業計画（平成18年）		評価時点 (平成26年)
	現況 (平成18年)	計画	
水稻	111.8	101.0	82.5
小麦	41.8	41.8	50.3
小豆	21.2	26.7	5.5
大豆	11.3	14.0	37.9
キャベツ	6.1	7.7	13.2
ねぎ	3.9	4.9	3.7
かぼちゃ	0.0	0.0	3.0

(出典：事業計画書（最終計画）、JAなんぼろ聞き取り)

【生産量】

(単位：t)

区分	事業計画（平成18年）		評価時点 (平成26年)
	現況 (平成18年)	計画	
水稻	572	556	455
小麦	193	231	277
小豆	41	61	12
大豆	26	38	103
キャベツ	315	474	811
ねぎ	116	174	132
かぼちゃ	0	0	40

(出典：事業計画書（最終計画）、JAなんぼろ聞き取り)

【生産額】

(単位：百万円)

区分	事業計画（平成18年）		評価時点 (平成26年)
	現況 (平成18年)	計画	
水稻	117	113	96

小麦	31	37	46
小豆	14	21	4
大豆	6	9	24
キャベツ	12	18	32
ねぎ	27	40	31
かぼちゃ	0	0	4

(出典：事業計画書（最終計画）、JAなんぼろ聞き取り)

(2) 営農経費の節減

本事業の実施によるほ場の大区画化や排水改良に伴う大型農業機械の導入及び農業用水の安定供給により、事業実施前と比べ農作業に係る労働時間等の節減が図られている。

【労働時間】

(単位：hr/ha)

区分	事業計画（平成18年）		評価時点 (平成26年)
	現況 (平成18年)	計画	
水稻	201.2	109.3	101.4
小麦	18.7	13.8	12.3
小豆	56.0	50.9	47.5
大豆	56.0	50.9	47.5
キャベツ	511.6	475.0	470.0
ねぎ	2,434.1	2,350.0	2,150.1

(出典：事業計画書（最終計画）、JAなんぼろ聞き取り)

【機械経費】

(単位：千円/ha)

区分	事業計画（平成18年）		評価時点 (平成26年)
	現況 (平成18年)	計画	
水稻	1,295	402	382
小麦	143	99	101
小豆	108	83	73
大豆	108	83	73
キャベツ	318	225	210
ねぎ	466	390	436

(出典：事業計画書（最終計画）、JAなんぼろ聞き取り)

4 事業効果の発現状況

(1) 事業の目的に関する事項

① 農業生産性の向上

本事業による排水改良や土層改良とともにほ場毎に暗渠排水と用水路を接続し、用水を洗浄水として注入することで暗渠排水管の清掃を可能とした集中管理孔を導入した結果、排水性等の土壌条件が向上したため、単収が増加するなど農業生産性が向上している。

【単収】

(単位：kg/10a)

区分	事業計画（平成18年）		評価時点 (平成26年)
	現況 (平成18年)	計画	
水稻	512	550	551
小麦	462	552	552
小豆	192	230	227
大豆	229	272	273
キャベツ	5,170	6,156	6,168
ねぎ	2,967	3,557	3,553

(出典：事業計画書（最終計画）、JAなんぼろ聞き取り)

(2) 土地改良長期計画における施策と目指す成果の確認

① 農地の大区画化・汎用化等による農業の体質強化

本事業による農業生産基盤の整備に伴い、農業生産法人（3法人）が設立されており、認定農業者と合わせて、地域農業の担い手が育成されているとともに、これら担い手への農地集積が進み、計画を上回る農地集積率となっている。

【担い手の育成状況】

（単位：人、法人）

区分	事業計画（平成18年）		評価時点 （平成26年）
	現況 （平成16年）	計画	
認定農業者	15	17	8
農業生産法人	1	3	3

（出典：南幌町聞き取り）

【担い手への農地集積】

（単位：ha、%）

区分	事業計画（平成18年）		評価時点 （平成26年）
	現況 （平成18年）	計画	
農地集積面積	129.4	187.0	188.4
農地集積率	62.0	91.6	92.3

（出典：南幌町聞き取り）

（3）事業による波及的効果等

株式会社農産物加工センター（ぼけっとハウスなんぼろ）では、地区内で生産されたキャベツを利用した「キャベツキムチ」の加工を行い、町内外のスーパー等で販売している。

また、クリーン農業の取組として「土作りの推進」のため堆肥等有機質の適正施用や緑肥作物の導入による、土壌の改善を図り、排水対策や土壌診断に基づいた適正施肥などの土作りを行っている。

これら6次産業化及びクリーン農業の取組により農産物の付加価値化が図られているとともに、新たに雇用が創出されており、地域の活性化に寄与している。

（4）事後評価時点における費用対効果分析の結果

妥当投資額 2,788万円

総事業費 1,601百万円

投資効率 1.74

（注）投資効率方式により算定。

5 事業実施による環境の変化

（1）生活環境

本事業で整備された用排水路により大雨による道路や宅地等の浸水被害が軽減するとともに、区画整理で農地が整然と整備されたことにより、農村景観が良くなった。

また、幹線用水路を一部管水路として埋設することによって、用排水路付近の安全性が向上した。

（2）自然環境

本地区は、工事の実施にあたり汚濁水の排出防止や低騒音・低振動・低排出ガスの重機を使用し、隣接する千歳川に飛来するマガモ等の野鳥への配慮を行った結果、事業実施後も野鳥の生息環境が維持保全されている。

また、区画整理にあたっては、既存の防風保安林（トドマツ）を極力残すように努めた結果、農村景観が保全されている。

6 今後の課題等

本事業によるほ場の大区画化と汎用化による大型機械化営農が促進され、大規模農業経営に向けた課題が改善され、併せて担い手への農地集積が進んでいる。

今後は、6次産業化のさらなる推進や、野菜栽培を中心とした生産法人や認定農業者の育成などによる所得向上とともに、地域の特産品を開発し、さらに直売所で販売することにより、新たな雇用を創出するなど、地域の活性化を図る必要がある。

事後評価結果	本事業の実施によって農作業の効率化が図られるとともに作付け作物の選択的拡大の促進やキャベツやねぎの単収が10a当たり約20%増加するなど生産性が大きく向上している。 また、農業生産法人が新たに設立され、これらの法人等の担い手への農地集積が促進され、地域農業構造の改善が図られている。 この他、キャベツの安定生産により地域の特産品の販売の維持及び雇用の確保がなされており、地域の活性化に寄与している。
第三者の意見	

夕張太北地区の事業の効用に関する説明資料

事業名	経営体育成基盤整備事業	都道府県名	北海道	地区名	夕張太北
-----	-------------	-------	-----	-----	------

1. 地区の概要

- ① 関係市町村：北海道夕張郡南幌町
- ② 受益面積：204ha
- ③ 主要工事：区画整理152ha、暗渠排水工45ha
農業用排水施設5.3km（用水路3.8km、排水路1.5km）
- ④ 事業費：1,374百万円
- ⑤ 事業期間：平成16年度～平成21年度（計画変更：平成18年度）
- ⑥ 関連事業：該当なし

2. 投資効率の算定

（単位：千円）

区 分	算定式	数 値	備 考
総事業費	①	1,600,697	関連事業を含む
年総効果額	②	159,847	
廃用損失額	③	102,496	廃止する施設の残存価値
総合耐用年数	④	35年	当該事業の耐用年数
還元率×（1＋建設利息率）	⑤	0.0553	総合耐用年数に応じ、年総効果額から妥当投資額を算定するための係数
妥当投資額	⑥＝②÷⑤－③	2,788,046	
投資効率	⑦＝⑥÷①	1.74	

3. 年総効果額の総括

（単位：千円）

効果項目 \ 区 分	年総効果額	効 果 の 要 因
農業生産向上効果	14,819	
作物生産効果	14,819	区画整理及び用排水施設の整備により、農業生産性の向上等が図られることで農作物の生産量が増減する効果
農業経営向上効果	117,698	
営農経費節減効果	90,524	区画整理及び用排水施設の整備によりほ場内の営農に係る経費が節減される効果
維持管理費節減効果	27,174	施設の整備により維持管理費が増減する効果

(単位：千円)

効果項目 \ 区 分	年総効果額	効 果 の 要 因
生産基盤保全効果	24,927	
更新効果	24,927	施設の整備により現況施設の機能及び従前の農業生産が維持される効果
その他の効果	2,403	
国産農産物安定供給効果	2,403	区画整理及び用排水施設の整備により農業生産性の向上や営農条件等の改善が図られ、国産農産物の安定供給に寄与する効果
計	159,847	
廃用損失額	102,496	耐用年数が尽きていない廃止施設の残存価値

4. 効果額の算定方法

(1) 作物生産効果

○効果の考え方

区画整理により、農業生産性の向上等が図られることで、農作物の「収量増減」、並びに「作物別作付面積の増減」により農作物の生産量が増減する効果。

○対象作物

水稻、小麦、小豆、大豆、キャベツ、ねぎ、かぼちゃ

○年効果額算定式

年効果額＝生産増減量（評価時点の農作物の生産量－事業実施前の現況における農作物の生産量）×生産物単価×純益率

○年効果額の算定

作物名	効果要因	農作物生産量（t）			生産物単価 (千円/t) ④	増 加 粗収益 (千円) ⑤=③×④	純益率 (%) ⑥	年効果額 (千円) ⑦=⑤×⑥
		現況 ①	評価時点 ②	増減 ③=②-①				
水稻	作付減	572.4	422.4	△ 150.0	210	△ 31,500	10	△ 3,150
	単収増	422.4	454.7	32.3	210	6,783	81	5,494
	計			△ 117.7		△ 24,717		2,344
小麦	作付増	193.1	240.0	46.9	167	7,832	－	－
	単収増	240.0	277.2	37.2	167	6,212	61	3,789
	計			84.1		14,044		3,789

小豆	作付減	40.7	10.6	△ 30.1	357	△ 10,746	20	△ 2,149
	単収増	10.6	12.4	1.8	357	643	84	540
	計			△ 28.3		△ 10,103		△ 1,609
大豆	作付増	25.9	98.5	72.6	235	17,061	-	-
	単収増	98.5	103.3	4.8	235	1,128	63	711
	計			77.4		18,189		711
キャベツ	作付増	315.4	753.3	437.9	40	17,516	19	3,328
	単収増	753.3	811.2	57.9	40	2,316	79	1,830
	計			495.8		19,832		5,158
ねぎ	作付減	115.7	109.8	△ 5.9	237	△ 1,398	2	△ 28
	単収増	109.8	131.5	21.7	237	5,143	80	4,114
	計			15.8		3,745		4,086
かぼちゃ	作付増		40.2	40.2	94	3,779	9	340
合 計								14,819

- ・農産物生産量：現況の農産物生産量（①）は、最終計画時点の現況の生産量である。評価時点の農産物生産量（②）は、農林水産統計等による最近５ヵ年の平均単収、湿潤かんがい等による増収率を考慮し算定した。
- ・生産物単価（④）：農業物価統計等による最近５ヵ年の販売価格に消費者物価指数を反映した価格。
- ・純益率（⑥）：「土地改良事業の費用対効果分析に必要な諸係数について」による標準値等を使用した。

（２）営農経費節減効果

○効果の考え方

区画整理等により、ほ場内の作業効率等の向上が図られ営農に係る経費が節減される効果。

○対象作物

水稻、小麦、小豆、大豆、キャベツ、ねぎ、かぼちゃ

○年効果額算定式

年効果額＝事業実施前の現況における営農経費－評価時点における営農経費

○年効果額の算定

作物名	効果要因	営農経費		年効果額
		現況	評価時点	
		①	②	③＝①－②
水稻	区画整理	千円 141,974	千円 63,383	千円 78,591
小麦	排水改良	9,168	5,845	3,323
小豆	排水改良	1,068	745	323
大豆	排水改良	7,839	5,466	2,373
キャベツ	排水改良	15,266	12,343	2,923

ねぎ	排水改良	17,247	14,495	2,752
かぼちゃ	排水改良	3,050	2,811	239
合 計		195,612	105,088	90,524

- ・現況営農経費（①）：最終計画時点の経済効果算定資料に記載された現況の経費を基に算定した。
- ・評価時点の営農経費（②）：北海道の農業経営指標等を参考に整理し算定した。

（３）維持管理費節減効果

○効果の考え方

施設の整備により、施設の維持管理費が増減する効果。

○対象施設

用水路、排水路、農道

○効果算定式

年効果額＝事業実施前の現況維持管理費－評価時点の維持管理費

○年効果額の算定

事業実施前の現況維持管理費 ①	評価時点の維持管理費 ②	年効果額 ③＝①－②
千円 30,771	千円 3,597	千円 27,174

- ・事業実施前の現況維持管理費（①）：最終計画時点の経済効果算定資料に記載された現況の経費を基に算定した。
- ・評価時点の維持管理費（②）：施設の管理団体からの聞き取りによる維持管理費用の実績等を基に算定した。

（４）更新効果

○効果の考え方

老朽化した土地改良施設を更新することにより、現況施設の機能及び従前の農業生産が維持される効果。

○対象施設

用水路、排水路、農道

○効果算定式

年効果額＝最経済的事業費 × 還元率

○年効果額の算定

対象施設	最経済的事業費 ①	還元率 ②	年効果額 ③＝①×②	備 考
耕作道	千円 19,235	0.0899	千円 1,729	耐用年数15年
排水路	58,869	0.0505	2,973	耐用年数40年
用水路（区画）	116,044	0.0505	5,860	耐用年数40年
用水路（農用）	248,522	0.0578	14,365	耐用年数30年
合計	442,670		24,927	

- ・最経済的事業費 (①)：現況施設と同じ機能を有する施設を再建設する場合の事業費。
- ・還元率 (②)：施設が有している総効果額を耐用年数期間における年効果額に換算するための係数。

(5) 国産農産物安定供給効果

○効果の考え方

区画整理による農用地及び水利条件の改良に伴い、維持・向上するとみなされる国産農産物の安定供給に対して国民が感じる安心感の効果。

○対象作物

水稻、小麦、小豆、大豆、キャベツ、ねぎ、かぼちゃ

○年効果額算定式

年効果額＝年増加粗収益額 × 単位食料生産額当たり効果額（原単位）

○年効果額の算定

効果名	年増加粗収益額 (千円) ①	単位食料生産額当たり効果額 (効果額(円)/ 食料生産額(千円)) ②	当該土地改良 事業における 効果額(千円) ③＝①×②	備考
国産農産物 安定供給効果	24,769	97	2,403	

- ・増加粗収益額 (①)：作物生産効果の算定過程で整理した作物生産量を基に算定した。
- ・単位食料生産額当たり効果額 (②)：『「国産農産物安定供給効果」について（平成27年3月27日付け農村振興局整備部長通知）』で定められた「97円/千円」を使用した。

(6) 廃用損失額

○考え方

廃止、改修を行う施設のうち、耐用年数を尽きていない施設については、廃止及び改修によって施設の有する残存価値が失われる。この価値を廃用損失額（デッドコスト）として算定。

○対象施設

用水路、排水路

○廃用損失額の算定式

廃用損失額＝償却資産額×残存率

○廃用損失額の算定

現況施設 (廃用施設)	設置 年	償却資産額 (千円) ①	残存率 (%) ②	廃用損失額 (千円) ③＝①×②
夕張太2支線1派線用水路	S52	8,680	20.0	1,736
南幌向幹線7分線用水路他10路線	S54	64,776	25.0	16,194
東夕張太幹線1派線用水路	S57	19,050	32.5	6,191
南幌向幹線1派線用水路他1路線	H1	19,248	50.0	9,624

南幌向上幹線第1支線1派線1分派用水路	H2	8,910	52.5	4,678
南幌向上支線用水路他2路線	H4	54,808	57.5	31,515
南幌向上幹線1派線用水路他1路線	H6	9,300	62.5	5,813
南幌向上支線4派線用水路	H7	11,130	65.0	7,235
排水路	H13	24,387	80.0	19,510
合計				102,496

〔・償却資産額（①）：廃用施設の事業費から廃棄価額（スクラップとしての価格）を差し引いた額〕

5. 評価に使用した資料

【共通】

- ・農林水産省構造改善局計画部監修（1988）「[改訂]解説土地改良の経済効果」大成出版社
- ・土地改良事業の費用対効果分析に必要な諸係数について（平成19年3月28日農林水産省農村振興局企画部長通知（平成27年3月27日一部改正））

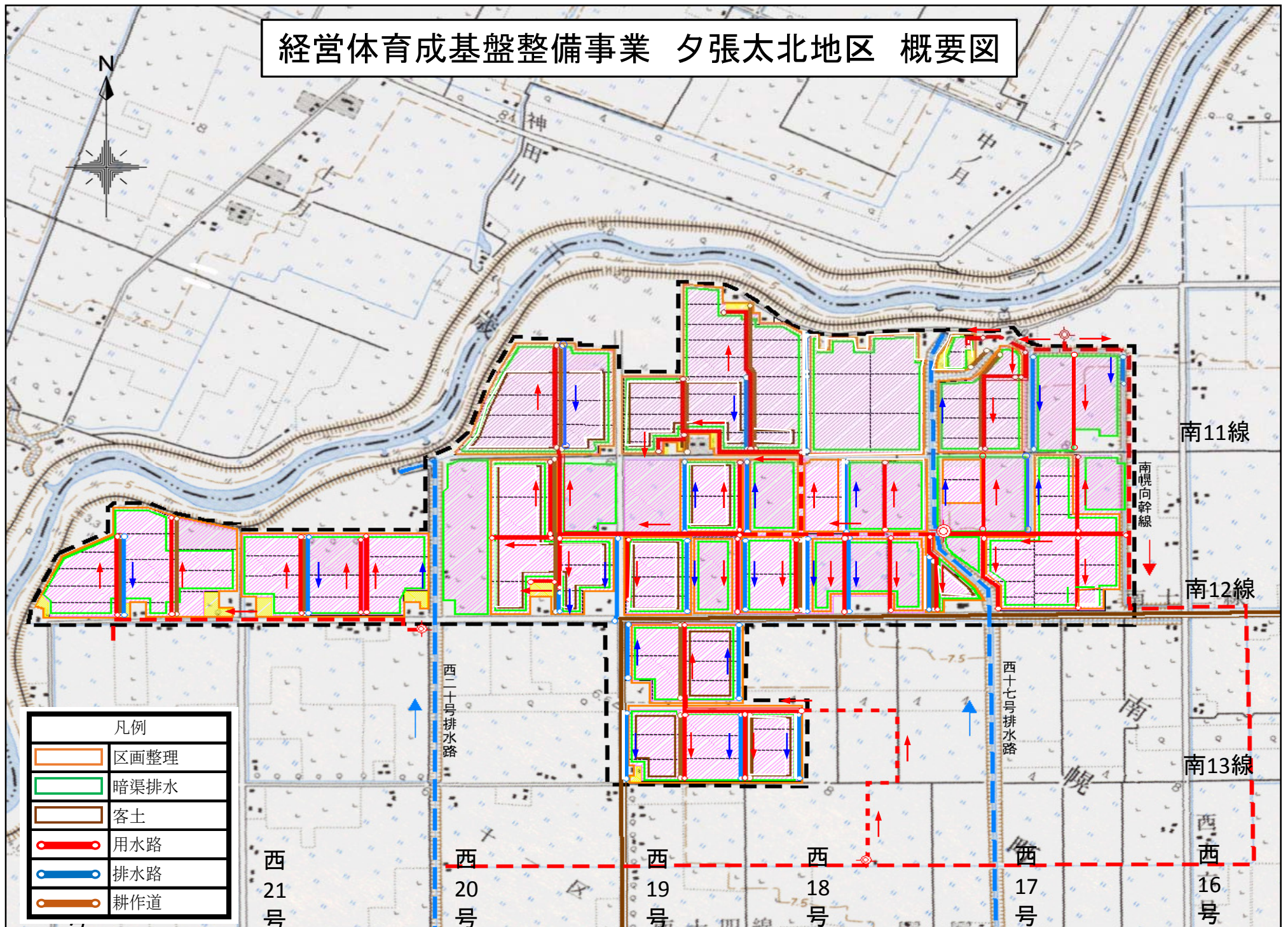
【費用】

- ・総事業費及び費用算定に必要な各種諸元については、北海道空知総合振興局産業振興部調整課調べ（平成26年）

【便益】

- ・北海道（平成16年度）「夕張太北地区土地改良事業計画書」
- ・北海道（平成18年度）「夕張太北地区土地改良事業（変更）計画書」
- ・北海道農政事務所「北海道農林水産統計年報（農業統計市町村別編、総合編）」
- ・便益算定に必要な各種諸元は、北海道農政部農村計画課調べ（平成26年）

経営体育成基盤整備事業 夕張太北地区 概要図



技術検討会委員事前説明時における指摘と回答(夕張太北地区)

番号	発言者	事業名	地区名	該当項目	意見等	回答
1	大熊委員	全事業	全地区	-	全ての地区で計画変更が行われているが、各地区ごとの変更理由は何か。また、どの様な内容が変更されたのか。	確認結果 本地区の計画変更の理由は、事業費の減少によるものです。 その要因は、当初区画整理工種において整地工と暗渠排水の一体整備を実施する計画であったが、田差が少なく中畦畔の除去等による簡易な区画拡大が可能であることから、受益者の要望により整地工を取り止め、暗渠排水単独整備としたことによるものです。
2	中原委員	経営体育成基盤整備事業	夕張太北	基礎資料と評価結果書の「3(1)農作物の生産量の変化」	事業実施後、計画に位置付けられていなかった「かぼちゃ」が新たに作付けされているが、本作物は、計画で予定されていたどの様な作物の代替として作付けされているのか。また、どの様な形態の農業者(法人、個別農家)が栽培しており、その販売先はどこで、生食用か、業務用かも教えてください。	確認結果 かぼちゃは水稻の代替作物として事業実施後に新たに作付されています。排水整備により転作作物の生産が容易になったとともに、大区画化により農作業が効率化され、余剰時間を活用したかぼちゃ等の高収益作物の作付けが計画以上に増加しています。 また、かぼちゃの作付けは個人農家で栽培しており、販売先は生食用とし札幌市場（ホクレン）へ出荷しています。
3	波多野委員	全事業	全地区	基礎資料と評価結果書の「4.事業効果の発現状況」	事業実施に伴い環境保全型農業、例えばクリーン農業等の取り組みは行われているのか。取り組みが行われているのであれば、PRの意味も含め波及効果として追記してはどうか。	意見を踏まえ、記載内容を修正 (修正前) 4(3)事業による波及的効果等 株式会社農産物加工センター（ぼけっとハウスなんぼろ）では、地区内で生産されたキャベツを利用した「キャベツキムチ」の加工を行い、町内外のスーパー等で販売している。 これら6次産業化の取り組みにより農産物の付加価値化が図られているとともに、新たに雇用が創出されており、地域の活性化に寄与している。 (修正後) 4(3)事業による波及的効果等 株式会社農産物加工センター（ぼけっとハウスなんぼろ）では、地区内で生産されたキャベツを利用した「キャベツキムチ」の加工を行い、町内外のスーパー等で販売している。 また、クリーン農業の取組として「土作りの推進」のため堆肥等有機質の適正施用や緑肥作物の導入による、土壌の改善を図り、排水対策や土壌診断に基づいた適正施肥などの土作りを行っている。 これら6次産業化及びクリーン農業の取り組みにより農産物の付加価値化が図られているとともに、新たに雇用が創出されており、地域の活性化に寄与している。
4	佐久間委員	経営体育成基盤整備事業	夕張太北	基礎資料と評価結果書の「4(2)①農地の大区画化・汎用化等による農業の体質強化」	評価時点の専業農家数19戸は、認定農業者17人と認定外農業者2人との認識でよいと思われるが、残りの2人はどのような営農を行っているのか。	確認結果 評価時点の専業農家数及び認定農業者数について確認を行ったところ、専業農家数は11戸、認定農業者数は8人の誤りでした。なお、専業農家数の内訳は、認定農業者（8人）と農業生産法人（3法人）となっております。
5	佐久間委員	経営体育成基盤整備事業	夕張太北	基礎資料と評価結果書の「4(2)①農地の大区画化・汎用化等による農業の体質強化」	評価時点の農地集積率が92.3%となっているが、残り7.7%の農地はどの様な利用形態となっているのか。	確認結果 目標に向け集積された以外の農地についても引き続き、農地流動化が進んでおり、現在も農地利用されています。
6	大熊委員	全事業	全地区	基礎資料と評価結果書の「5.事業実施による環境の変化」	自然環境については、配慮の対象範囲が広い(鳥類、魚類など)が、事業実施前後にどの様な調査を行っているのか。	確認結果 計画策定時及び事業実施後において、施工予定エリアに保護対象となる生物が生息していないか等を受益者に聞き取りを行ったうえで、改良区職員が現地で目視によって確認しています
7	大熊委員	全事業	全地区	基礎資料と評価結果書の「5.事業実施による環境の変化」	工事実施中の配慮対策として、低振動などの例をあげているが、他に工事施工中の環境配慮に関する事例はあるのか。	確認結果 工事にあたり施工時期や施工方法等を十分に検討し、濁水が下流の河川に流入しないよう配慮しております。また、防風林の伐採を行わず景観保全に努めるとともに、施工区域をブロック単位で複数年度に分けて野鳥等の生息区間を抑えた結果、野鳥等の巢も確認しており現在も、その巢から幼鳥が飛び立つところを確認され、従前どおりの環境は今も変わらず保全されています。

技術検討会委員事前説明時における指摘と回答(夕張太北地区)

番号	発言者	事業名	地区名	該当項目	意見等	回答
8	佐久間委員	経営体育成基盤整備事業	夕張太北	基礎資料と評価結果書の「7.事後評価結果」	事後評価結果に「本事業により田畑輪換が可能となり、作付作物の選択の拡大や転作作物の収量が増加」した旨の内容を追加してはどうか。	意見を踏まえ、記載内容を修正 (修正前) 本事業の実施によって、農作業の効率化や生産性が大きく向上するとともに、農業生産法人が新たに設立され、これら法人等の担い手への農地集積が促進されており、地域農業構造の改善につながっている。 また、キャベツの安定生産により地域の特産品の販売の維持及び雇用の確保がなされており、地域の活性化に寄与している。 (修正後) 本事業の実施によって農作業の効率化が図られるとともに作付け作物の選択的拡大の促進やキャベツやねぎの単収が10a当たり約20%増加するなど生産性が大きく向上している。 また、農業生産法人が新たに設立され、これらの法人等の担い手への農地集積が促進され、地域農業構造の改善が図られている。 この他、キャベツの安定生産により地域の特産品の販売の維持及び雇用の確保がなされており、地域の活性化に寄与している。